

平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査結果」概要 ～阿南市小中学校における学力の傾向と対策について～

阿南市教育委員会

この資料は、平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、阿南市の子どもたちの学力や学習状況の傾向をまとめたものです。阿南市と全国の平均正答率を比較することによって、特に顕著であったものについて説明しています。

1 調査の概要

- 実施日 平成31年4月18日(木)
- 調査対象 小学校第6学年の児童、中学校第3学年の生徒
- 調査内容
 - ・学力調査：小学校(国語、算数)、中学校(国語、数学、英語)
※今年度より、「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」が一体的に出題されました。
※中学校の英語においては「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」に関する問題が出題されました。
 - ・質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する内容

2 小学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では、正答率が全国平均とほぼ同じでした。
- 2 算数では、正答率が全国平均をやや上回りました。
- 3 解答欄に記入がない無解答率は、全国平均をやや下回りました。

② 結果分析等の概要

□ 国語

「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」ことや、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」ことなどの正答率が全国平均を上回っています。また、記述式の全ての設問で、正答率が全国平均を上回り、各校の「書く活動」を取り入れた授業づくりの

成果が表れていると考えます。

しかし、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」設問のうち「同音異義語」に関する設問の正答率が全国平均を大きく下回っています。漢字の持つ意味が理解できるよう、指導の工夫が必要です。

□ 算数

「示された計算の仕方を解釈」した上で、「除法に関して成り立つ性質を記述」したり、「かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算」したりするなど、「数学的な考え方」に関する設問の多くで全国平均を上回っています。また、国語と同様に記述式の設問での正答率が高い傾向が見られます。

しかし、「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること」や「棒グラフから一方の量がもう一方の量の何倍になっているかを読み取ること」についての正答率が全国平均を下回っており、計算やグラフの読み取りなど「数量や図形についての技能」の定着に課題が見られます。基礎基本を大切にしたい授業づくりを徹底する必要があります。

(2) 質問紙調査

- 「自分にはよいところがある」「先生は自分のよいところを認めてくれている」と肯定的に捉えている児童の割合が全国平均を上回っています。これは、自尊心や達成感を高めるための取組を学校全体で積み上げてきた成果であると考えます。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「人が困っているときは、進んで助ける」「学級みんなで話し合っただけで決めたことに協力して取り組み、うれしかったことがある」の質問についても肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を上回っており、各校が道徳教育・人権教育や仲間づくりにしっかりと取り組んだ成果だと考えられます。
- 「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝起きしている」などの基本的な生活習慣に関する質問で全国平均を上回っています。基本的な生活習慣の定着に向けた、保護者と連携した取組の成果だと考えられます。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「学校の授業時間以外に、1日あたり（平日）1時間以上勉強をしている」児童の割合は全国平均を下回っており、家庭学習習慣の定着に課題が見られます。各校では、家庭学習の手引き等を作成・配布するなど家庭学習の定着・充実に向けて取り組んでいますが、さらに授業内容と家庭学習に関連性を持たせるなど、児童が主体的に家庭学習に取り組むことができるような工夫が必要です。
- 国語・算数とも今回の学力調査の「解答時間が足りなかった」と感じている児童の割合が全国平均を大きく上回っています。「問題を速く正確に読み取る力」の育成に取り組む必要があります。

3 中学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では、正答率が全国平均を下回りました。
- 2 数学では、正答率が全国平均をやや下回りました。
- 3 英語では、正答率が全国平均をやや下回りました。
- 4 解答欄に記入がない無解答率は、全国平均を上回りました。

② 結果分析等の概要

□ 国語

「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つ」ことについて、必要な条件を満たして正しく解答できている割合が全国平均をやや上回っています。

「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」ことや「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」ことについての正答率が全国平均を下回っており、「読む能力」に課題が見られます。また、「封筒の書き方」や「語の一部を省いた表現の適切な活用の仕方」への理解など「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の定着に課題が見られます。国語の授業だけでなく、全ての教科等においても「言語活動」を充実させていく必要があります。

□ 数学

「連立二元一次方程式を解くこと」や「反比例の表から、 x と y の関係を式で表すこと」など基本的な「数学的な技能」については、概ね定着しており、基礎基本を大切に丁寧な指導の成果であると考えています。

しかし、問題解決の方法や事柄が成り立つ理由などを「説明すること」については、全ての設問で正答率が全国平均を下回るとともに、無解答率も高い傾向にあります。数学の授業だけでなく、他教科においても、自分の考えた方法や理由についてノートに書いたり、説明・話し合いの機会を増やすなどの授業改善を進めていく必要があります。

□ 英語

「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ること」についての複数の設問で正答率が全国平均を上回っています。

しかし、「情報を正確に聞き取ること」「文の中で適切に接続詞を用いること」「一般動詞を用いた肯定文や否定文を正確に書くこと」については、正答率が全国平均を下回っており、「聞くこと」「書くこと」について力を伸ばすための指導の工夫が必要です。

(2) 質問紙調査

- 小学校と同様に、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と捉えている生徒が全国平均を大きく上回っています。「学校に行くのが楽しい」「学校の規則を守っている」と回答した生徒の割合も高く、多くの生徒が安定した学校生活を送ることができていると考えられます。
- 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」と回答した生徒の割合が高いことから、豊かな国際感覚やグローバルな視点を持つ生徒が育っていると考えられます。
- 「部活動（運動部・文化部）に参加している」「1日あたり（平日）2時間以上部活動をしている」と回答した生徒の割合は全国平均を大きく上回っており、部活動が生徒の健全育成上、大きな役割を担っていると考えます。
同時に「家で自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業時間以外に、1日あたり（平日）2時間以上勉強をしている」と回答した生徒の割合も全国平均を上回っていることから、部活動と勉強が両立できている生徒が多いと考えられます。
一方で「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする時間」や「学校の授業以外（平日）の1日あたりの読書時間」については、全国平均より少ない傾向にあります。
- 小学校と同様に、「国語・数学・英語とも学力調査の解答時間が足りなかったと回答している生徒の割合が全国平均を大きく上回っており、問題を速く正確に読み取る力の育成に取り組む必要があります。」

4 今後の対策について

- 1 各校ごとに調査結果を分析し、自校の課題を把握するとともに、改善策について全教職員の共通理解を図り、組織的に学力向上に向けた取組を推進します。
- 2 市の指定研究事業「学力向上」、「アカデミック・プロGRESS・プロジェクト」、また、県の「授業改善」推進校事業等の各指定校の研究・実践の成果を市内の各学校に広く普及することにより、市全体の教員の授業力向上を図ります。
- 3 基本的な生活習慣や読書習慣の確立、家庭学習の充実等に向けて、各校のHPや学校だより等での情報提供に取り組めます。